一般社団法人　山形県介護支援専門員協会会誌

ケアマネ通信　やまがた No.23

一般社団法人日本介護支援専門員協会
一般社団法人山形県介護支援専門員協会　共催

平成28年度　都道府県支部共催研修認知症対応型共同生活介護研修会 in 山形

山形県介護支援専門員協会 第3回研修会

新研修カリキュラムに対応したグループホームのケアプランの作成に考え方
～より質の高い認知症ケアマネジメントを目指して～

日　時　平成29年3月12日(日)10:00～16:30
ヒルズサンピア山形(山形県山形市蔵王飯田637)において開催されました。

120名(県外からの参加者含む)の参加がありました。非会員の方からも多数参加いただき、介護支援専門員協会の活動についてもご理解いただけたように思います。第一部、第二部ともに大変、充実した講演内容でした。アンケートには、「山形県でこのような多数講師陣で受講できてよかった」「これからも、グループホーム向けの研修会を開催してもらいたい」と好評でした。

【研修内容】

第1部　10:00～14:10

講演①「認知症対応型共同生活介護における最新情報」

講師：佐藤裕邦氏　認知症対応型共同生活介護部会部会長(山形県介護支援専門員協会会長)

＊グループホームを地域における認知症ケアの拠点化としての活動を推進化していく必要がある。との情報提供がありました。

平成28年度　都道府県支部共催研修
認知症対応型共同生活介護研修会 in 山形
山形県介護支援専門員協会 第3回研修会 …… 1
書籍紹介 …… 3
理事会報告 …… 4
新事務局員紹介 …… 6
相談窓口(ケアマネ110番)より …… 7
サポート委員会 …… 7
コーヒータイム …… 8
編集後記 …… 8

講演②「新研修カリキュラム事例演習」
講師：助川未枝保氏
　　日本介護支援専門員協会常任理事

　介護支援専門員法定研修における事例のまとめ方、事例演習時のプレゼンテーションについての説明があり、**認知症対応型共同生活介護のケアプランは、「その人らしい暮らしが送れる計画書」**との話がありました。

事例演習について
①「全体の流れについて」
　講師：石原俊彦氏　認知症対応型共同生活介護部会副部会長
②「課題整理総括表の書き方」
　講師：笠松信幸氏　日本介護支援専門員協会常任理事
※「課題整理総括表・評価表」の意義、活用場面について理解する。
「課題整理総括表」の作成方法を理解する。
「課題整理総括表・評価表」が日常業務、カンファレンスで利用できる。
以上３点から、日頃、どのように活用していくかについて講義がありました。
③「医療との連携について」
　講師：井田英宏氏　認知症対応型共同生活介護部会部会員
＊「医療ニーズの高い入居者の介護」「BPSDがある入居者の介護」「「殆どのグループホームでは看護師の配置がないこと」などをキーワードにして「医療との連携について」実際に、ケアプランから支援経過までの説明があり、大変、理解しやすい講義でした。
④「地域の視点について」
　講師：芳野正裕氏　認知症対応型共同生活介護部会部会員
※「グループホームと地域との関係について」～「地域資源の開発、発見」～「マップ作り」まで奈良県の事例をもとに講義いただきました。「地域づくり」について理解を深めることができました。

第２部　14:30～16:30

講演「認知症とともよりよく暮らす　これからの生き方・支えあい方」

講師：永田久美子　認知症介護研究・研修東京センター研究部会長

「これからの認知症介護の方向性・視点を（再）確認しよう」というところから始まり、第一部の講義を振り返ることができました。
認知症の人の支援の変遷では、
【1960年代】ケアなき処遇、【1970年代】問題対処（制止・拘束・過鎮静）、
【1980年代】専門的管理（生活管理・療療法）【1990年代】個別生活支援の始まり、
【2000年代】地域生活支援の始まり、【2010年代】本人の意思重視の継続支援の始まり、
【2015年代】本人が希望持って生きる地域協働、

との説明があり、1990年代から認知症グループホーム、小規模多機能ホームが開設され出したとのことでした。認知症の人の支援の変遷は、本人の傍らにいる人の施行錯誤の積み上げ、支援のあり方で、本人の姿が大きく異なる。そして、現場が実践した成果をもとに国が施策を展開してきている。ただ、2016年現在、同時代に「50年分もの格差」が混在しているのが現状である。「わが職場、地域は、自分は、どうか？これからどう進む？」を常に考えていかなければならない。

これからは、団塊世代以降の人たちが認知症になる時代、認知症になってからの生き方が大きく変化している、認知症ワーキンググループ設立（2014年10月）、「希望と尊厳をもって暮らし続ける社会をつくるために認知症の自分たちが社会をよりよく変える活動を始めていこう」「声を出せない本人の代弁もしていこう」当事者活動が始まっている。これからの認知症ケアは、本人の意思を尊重（声を聴く）し、当事者の視点に立つ「当事者主体」、目指す認知症の人の姿は、「認知症とともによりよく生きていくことができる」単に支えられる側と考えない、自分らしく暮らし続けることができる。「小さくても、新しい流れを作って一緒に創ろう」と最後に励ましていただきました。

書籍紹介

「人生はニャンとかなる」

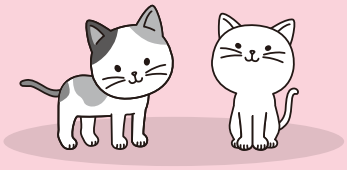
著者：水野敬也・長沼直樹
出版社：分響社

書店に入ると話題のコーナーに猫の本がここぞとばかり並んでいます。その中でも思わず手に取ったのがこの「人生はニャンとかなる」でした。サブタイトルとして「明日に幸福をまねく68の方法」とあり興味をそそられます。パラパラとめくってみると単なる癒され本ではなく、偉人のエピソードや格言を猫からのメッセージのように感じられるものになっています。内容は、スタート・仕事・冒険・リラックス・習慣・コミュニケーション・希望の7つのカテゴリーに分かれており、人生で大切なことや大切な言葉が猫の写真とその写真にマッチしたキャッチコピーとなって綴られています。

カテカゴリー仕事の中に「たくさんの耳を持とう」というメッセージがあります。自分の考えにとらわれず、人の意見に耳を傾けられる人に成功は訪れると。自然は人間に一枚の舌と二つの耳を与えた。だから人は話すことの二倍だけ聞かねばならないと。私たちはいろんな場面で様々な相談を受けることが毎日のことと思います。よく言われていることですが、相手の話を耳を傾けて聞いていますか?と自分を振り返ることもできました。

猫好きの方にとっては可愛い猫の写真にもクスッと心をくすぐられるでしょう。猫好きではない方にもぜひ…。

（小関）



理事会報告

第28回理事会

●日時　平成28年12月3日（土）16時～
●場所　山形市総合福祉センター
●出席理事　佐藤裕　高木　明日　高橋　伊藤喜
鈴木真　高山　藤橋　菅原　荒木
児玉　阿部　星川　村山　丹野
五十嵐　庄司　白井　佐藤温　宮林

1. 各地区支部報告

1）山形地区支部：10月9日（土）研修会開催。2月12日（日）日本糖尿病協会・日本介護支援専門員協会合同事業「糖尿病療養支援・介護にかかわるスタッフの勉強会」開催予定。
2）最上地区支部：7月9日（土）、11月19日（土）研修会開催。
3）庄内地区支部：今後の予定報告。
4）村山地区支部：10月15日（土）研修会・ケアマネんボの会。
5）置賜地区支部：11月5日（土）研修会開催。93名の参加者数。非会員40名程あった。現在置賜保健所を中心に医療介護連携強化のための「入退院調整ルール」の作成作業が行われている。

2. 委員会報告

1）研修委員会：3月12日（日）日本介護支援専門員協会共催の第3回研修会について（会員への案内は配布済み）
2）サポート委員会：相談件数の報告あり。相談窓口であるホームページ掲示板へ専門研修や協会への苦情問い合わせ的な内容もあり。掲示板はあくまでも本来の目的の相談受付とし、苦情受付については事務局へメールもしくはFAXにて応じていくこと、その旨を会員へ周知。
3）広報委員会：「ケアマネ通信No22（2月発刊予定」の編集内容の報告。掲示板の受け付け内容と苦情受付についても掲載。
4）調査・研究委員会：認定調査についての調査内容作成中。
5）総務委員会
役員改選に向けての準備作業中。言語聴覚士会からの団体推薦理事について検討。
6）研修受託事業委員会：専門研修が滞りなく終了。現在終了証の発行作業中。

3. 新規入会者の承認について

3名の新規入会者が承認された。

4. その他

・山形県難病医療等連絡協議会委員推薦について
新たな推薦依頼あり。荒木理事の推薦決定。任期は2年間。
・福祉サービス利用援助事業関係機関連絡会議への出席について
1月24日（火）開催。藤橋理事出席予定。
・介護支援専門員研修評価委員会から報告
今年度は初めて法定研修についての終了時の評価が導入された。課題として、評価委員会メンバー（未公表）の選定（第3者委員を参加してもらう）、評価基準の明確化をしていくことが挙げられた。

第29回理事会

●日時　平成29年1月21日（土）16時～
●場所　山形市総合福祉センター
●出席理事　佐藤裕　高木　明日　鈴木真　高山
星川　小関　佐藤貴　藤橋　菅原
荒木　阿部　村山　丹野　五十嵐
庄司　白井　佐藤温　宮林

1. 委員会報告

1）研修：第3回の参加者状況報告あり。
平成29年度は年間計画を立てる。第1回山形市・第2回他地区・第3回山形市。報酬改定については別枠になる可能性あり。
2）サポート：12月末68件。昨年度117件やや少ない。掲示板8割程。居宅ケアマネが多い。
3）広報：22号編集作業状況の報告あり。
4）調査・研究：認定調査についての調査について、調査票完成。
5）総務：入会案内を実務研修にて実施予定。
6）研修受託：研修終了。3カ月後の振り返作業中。
初のカリキュラムでの実施。課題が多い。

2. 地区支部報告

1）山形：1月18日（水）研修会報告。2月12日（日）糖尿病関連研修会の予定（終了）。
2）最上：2月18日（土）、3月4日（土）研修会予定。
3）庄内：1月28日第5回ケアマネ大会予定。
4）村山：1月12日（木）第3回研修会報告。
5）置賜：なし。

3. 第3回研修会について

参加者確保のための工夫の検討がなされた。

4. 理事改選について

日程の提示、役員の規定、理事を推薦する団体の確認等が確認された。山形県言語聴覚士会へ新たに理事推薦依頼をする予定。29年度総会は6月11日(日)午後。研修会講師の検討。

5. その他

・代議員改選:日本協会の対応を受け今後検討。
・委員会体制の見直しについて:現在の委員会体制が検討された。29年度事業計画に反映させるかも含め検討していく。
・今回の調査(認定調査について)の対象検討。

第30回理事会

●日時　平成29年2月26日(日)10時～
●場所　山形市総合福祉センター
●出席理事　佐藤裕　明日　鈴木真　星川　小関　佐藤貴　藤橋　菅原　荒木　阿部　佐藤一　佐藤知　村山　丹野　五十嵐　白井　伊藤喜　加藤　児玉　佐藤温　宮林

1. 委員会報告

1) 研修:28年度事業報告・29年度事業計画素案が示される。29年度は年間テーマ「ケアマネジメント力強化」として立案予定。会員と非会員の会費設定が課題。
2) サポート:相談業務県担当者から、現相談掲示板の閉鎖も含めた相談体制の拡充・県委託事業としてのPR強化などの意向提案あり。相談掲示板の廃止・会員専用掲示版の開設をしていく。また各支部からサポート委員の配置の検討をし、「面接」での相談体制を構築していくこととなる。
3) 広報:「ケアマネ通信No23」編集内容の報告。
4) 調査・研究:「認定調査について」の調査票の会員への配布を完了。
5) 総務:今年度の会員数の状況報告。会員状況の把握現在・組織体制の再検討など課題報告あり。
6) 研修受託事業:厚生労働省全国介護支援専門員研修向上会議へ委員長出席。県介護支援専門員研修向上会議へ会長出席。研修内容の平準化という点において課題が多いことが報告された。

2. 地区支部報告

1) 山形:2月12日(日)、第3回研修会報告。
2) 庄内:1月28日(土)研修会。役員会開催。
3) 村山:役員会開催。
4) 置賜:地域包括ケア構築に係る医療会議合同会議(保健所主催)。1月15日開催。3月9日予定。支部から2名がアドバイザーとして参加予定。

3. 第3回研修会について

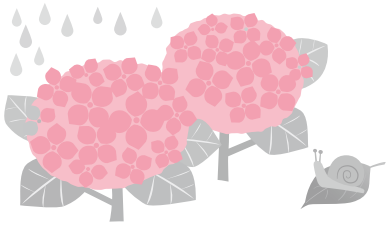
県内88名、県外10名の参加申し込み数あり。

4. 第6回　総会の日程について

6月11日(日)、会場ビッグウイングにて予定。

5. その他

・平成29年度事業(案)について:総会資料の取りまとめ予定(委員会・地区支部)。
・言語聴覚士会への団体推薦理事派遣依頼行う。



第31回理事会

●日時　平成29年4月8日(土)16時～
●場所　山形市総合福祉センター
●出席理事　高木　明日　鈴木真　星川　小関　佐藤貴　藤橋　荒木　阿部　星　佐藤知　村山　丹野　白井　伊藤喜　加藤　児玉　佐藤温　峯田

1. 各委員会活動について

1) 研修:3月12日(日)第3回研修会について
120名参加。非会員が多かった。
2) サポート:県委託事業の変更。掲示板閉鎖3月31日。90件。今年度は少ない。会員専用掲示板の作成。
3) 調査・研究:今回調査回答数75(550人中)。
東北福祉大関田先生からアンケートの協力依頼あり。調整中。
4) 総務:3月の実務研修時に新規会員の勧誘行った。再入会者あり。
6) 研修受託事業:県担当者、県社協との打ち合わせあり。専門Ⅰ研修の要項4月11日にホームページに掲載。

2. 各支部活動について

1）山形:5月31日に総会予定。鷲見会長より30年度改定に向けての研修。
2）最上:5月19日に総会予定。医療連携シートへの参加を検討。
3）庄内:29年度は3回の研修会を予定している。糖尿病について2回。ケアマネジャー大会を1回。

3. 新規入会申し込み者について

14名の入会者が承認された。

4. 理事改選について

14団体からの団体推薦理事候補者の報告あり。新たに山形県言語聴覚士会からの推薦あり。地区支部推薦理事候補者の報告あり。

5. 平成28年度事業報告書について

6. 平成29年度事業について

7. その他

・日本介護支援専門員協会29年度次期代議員について佐藤裕邦会長、佐藤知生理事の立候補決定。
・山形県難病医療等連絡協議会報告
3月27日開催。荒木理事参加。

新事務局員紹介

はじめまして、平成28年度5月10日より山形県介護支援専門員協会事務局として勤務させていただいております柴崎と申します。

これまでは介護業界とは無縁でしたので、介護支援専門員の制度やしくみを勉強することからのスタートでした。

また、1年間事務局員として研修等の運営を経験させていただき、介護支援専門員の方々の更新研修に携わることの責任の重要さを感じました。今年度は事務局員に新たにメンバーを迎えましたので、お互い協力しながら少しでも皆様のお役に立てるよう知識を増やし全力をつくしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。　（柴崎）

はじめまして。

昨年11月より事務局に勤務させて頂いております小林泰子と申します。

出身は福島県、山形市に来て早いもので12年になります。

平成23年に一般社団法人となり大勢の会員さんのいる協会の運営の一端に関われることは、大変光栄に感じるとともに、責任に身が引き締まる思いです。

ケアマネさんといえばとてもパワフルで頼りになるそして多忙な方…というのが印象です。事務経験も少なく介護支援専門員についてもまだまだ勉強中ですが、一日でも早く皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思います。不慣れで皆様にご迷惑をかけることも多々あるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。　（小林）

ケアマネ110番より

相談窓口（ケアマネ110番）より

このコーナーでは山形県介護支援専門員協会相談窓口に寄せられたご相談と回答をお伝えします。

病院退院時カンファレンスについて

質問

ご利用者様が病院を退院するにあたりまして、病院で状態確認と情報共有のための退院カンファレンスがありました。病院のMSW様から、「ケアマネさんで進めてください」と言われ、退院時のカンファレンスは病院が主体で行うものと伺っておりましたので面食らいました。本来の事と、ケアマネジャーが進めてよろしいものなのかご指導ください。また良い進め方があれば教えて下さい。

回答

退院時カンファレンスについては、ご指摘の通り、病院が主体で行うことが多いのですが、どちらが司会をしなければならないという取り決めがあるわけではありません。入院先の病院の退院支援体制・担当者によって病院側が司会をする場合もありますし、ケアマネジャーが司会をすることもあります。カンファレンスの目的によっても違いますので事前にどちらが進行をするか確認しておくとよいかもしれません。退院時カンファレンスは入院先の医療機関及び本人・家族との連携に基づき退院支援の進捗状況の確認・在宅療養目標と内容のすり合わせを行う貴重な機会です。カンファレンス開催の時期や利用者・家族の状況によっても違ってきますので、今後も、経験を積み重ね、より有意義なカンファレンス運営のスキルを学んでいきましょう。

進行のポイントの一例をあげてみますので参考にしてください。

①出席者の所属・氏名を明らかすること。
②カンファレンスの開催目的を明確にすること。
③ケアマネジャーとしてケアチームがサービスを提供する際に必要となる医療情報や配慮する点を確認しながら、短時間で効率よく、聞き取りをすること。
④説明された医療専門用語で理解できない言葉があれば、その場で確認すること。
⑤カンファレンス中に在宅チーム内だけで退院後の相談に時間を費やさないように、内容をコントロールし、カンファアレンス終了後に行うように配慮すること。

サポート委員会

・山形県相談業務委託事業として、平成14年より長きにわたりご愛用いただいた『ケアマネ掲示板(公開)』を平成29年3月31日に終了いたしました。ケアマネの皆様からの質問やお悩み相談をお受けし、少しでも業務が捗るようにご支援して参りましたが、匿名での書き込みのためか保険者や個人名が特定されるような不適切な書き込みもあり、秩序を守れないと判断し終了となりました。今後は、これまで山形市内の事務局のみで行なっていた面接相談を各地区支部で行なえるように強化するとともに、これまで通り、電話、FAX、eメール、郵送にてお受けいたします。お気軽にご相談ください。

（荒木昭雄）

ほっと　ひといき
コーヒータイム

これからの目標は認知症対策？

酉年も今回で五回目、大きな節目の還暦の年となった。人生の節目は、自慢ではないが、他の方より多いほうかもしれない。今の私は、節目の多い大きな美しい竹のようになっているだろうか。結婚、出産、離婚、子育て、歯科医師として主婦から復帰し、歯科医院を父から、継承し、現在もお世話になっている県歯科医師会の地域保健常任委員から、現常務理事、地元での、ボランティア的なNPOや国際交流の役員等々のライフワーク。何でも活動してみたくてたくさんの予定が入り、周囲のかたがたにご協力いただいているおかげで、充実した生活を送ることができ忙しいことも苦しいこともそれなりに楽しんでいることに感謝している。収入とはあまり関係なく何か役に立てればということを生きがいにしていることを、少しは、周囲の方にご理解いただいているだろうか?

先日北海道・東北地区歯科医師会担当理事協議会で「生涯健康脳」のテーマで東北大学加齢研究所機能画像医学研究分野の瀧靖之教授の特別講演を拝聴した。認知症予防には、・運動・趣味・コミュニケーションが大切とお聞きし、これからは、認知症とフレイル対策を自分もそして、歯科医師として周囲の方への支援を目標にしようと考えている。そのご講演では、筋肉量の、機能の低下により活動量が減少することも注意であり、NHKスペシャル「幸せ名人は長生きする」では、ストレスホルモンが低く、副交感神経が優位であるが、ストレスは、どこにでもあり、ストレスを低くするには、メデェテーション、ヨガ、瞑想が有効であるとのお話もあった。これからの人生を楽しむためには、ここははずせない。さて自分はどうか。趣味の一番は、「食」作ることも食べることもとても好き。今は、お肉大好きなグループに属し、8キロくらいの皮を剥いたお肉が送られてくるので、その処理を楽しみ料理し食している。食は、まず、料理するところから脳を使い、食すると五感を同時に刺激することができる最大の認知症対策である。健康なお口で美味しいと思いながら幸せを感じることができる。次は、運動、たまにしかできないし下手の横好きだけど、ゴルフはたまに優勝できたりするし、楽しい。そして、前は、よさこいだったが、最近は、フラを習っている。どれも楽しむことが一番と講演でもお話があったので、なんとなく対策はできている様である。これを継続し、新しい楽しいことを探して生きたいと思っている。そして、他の方たちにも、歯科からの認知症対策をお話していきたいと考えている。

（星川　知佳子）

編集後記

・4月より、開設された介護老人保健施設への配属となりました。職員のほとんどは老健での勤務をしたことがない素人で、四苦八苦している最中です。次年度の介護報酬改定もあり、落ち着くことは当分ないのだとうという感じがしています。花見の余裕もなく、気が付くと桜も散っていました。

・日本協会の代議員が、長く一人だったのが、二人になりました。会員数も増えた結果ですが、今後も増えていくことを期待します。

一般社団法人　山形県介護支援専門員協会会誌
ケアマネ通信　やまがた　No.23

発行日／平成29年５月
発行人／佐藤　裕邦
発行所／一般社団法人 山形県介護支援専門員協会
〒990-0021 山形市小白川町2-3-31
山形県総合社会福祉センター内
TEL 023-633-1098　FAX 023-615-6521
E-mail : yacm@pony.ocn.ne.jp

印刷・製本／田宮印刷株式会社
〒990-2251　山形市立谷川三丁目 1410-1
TEL 023-686-6111　FAX 023-686-6114